平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	11100 番枝	簡易水道施設建設事業費	担当課	水道部　上水道課	内線 2254

予算			総合計画		
会計	9	簡易水道施設建設事業費	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
款	1	簡易水道事業費	分野	5	上・下水道
項	1	簡易水道施設費	基本施策	1	安全で安心な水を安定して供給する
目	1	簡易水道施設建設費	施策	3	経営の安定

根拠計画		高山市水道ビジョン、高山市水道事業整備5か年計画
実施計画事業		配水管拡張整備事業、配水管布設替事業、簡易水道施設整備事業、水道施設維持修繕・改修事業、老朽管対策整備事業
市長公約	6	市民の生活と生命・財産を守ります ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	簡易水道利用者全員	対象者数	15,612　人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・安全で安心な水を安定して供給する		
概要	事業の実施手法(手段)	・簡易水道施設の新設・改良整備を行う		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面		
H24の実績	奥飛騨温泉郷簡易水道整備事業　平湯浄水場基幹改良工事　急速ろ過棟築造工　N=1式、機械設備　N=1式 本郷簡易水道整備事業　長倉浄水場基幹改良工事　浄水場築造工　緩速ろ過池　N=2.0池、配水地　V=50.0㎥ 管理棟建築工　RC造　平屋建て　述べ床面積A=23.32㎡ 配水地等の機器更新工事　2箇所、配水管布設替工事　L=793m、配水管布設工事　L=353m	

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	管路整備・改良延長	m	目標値	480	950	3,346
			実績値	398	1,146	－
	算出根拠等		達成率(%)	83	121	－
成果指標	給水人口	人	目標値	18,798	18,798	18,798
			実績値	15,863	15,612	－
	算出根拠等　現在給水人口		達成率(%)	84	83	－
成果指標	水道施設耐震化率	%	目標値	100	100	100
			実績値	79.0	87.9	－
	算出根拠等　布設替・布設延長の内、耐震管の割合		達成率(%)	79	88	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

各種計画に基づいた施設整備を着実に実施している

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出　(千円)　(A)	265,536	196,003	325,332
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	18,936	20,186	29,432
財源内訳	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	246,600	175,817	295,900
財源内訳	一般財源			
コスト指標	受益者1件当たり(円)　(A／B)	16,739	12,555	20,839
コスト指標	受益者　給水人口　(B)	15,863	15,612	15,612

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・安全安心な上水道ということについての市民ニーズは高く、安定的に必要性が認められている
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・安全安心な上水道の供給は市の重要な責務である
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進めており、目的とする成果があがっている
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・工事にあたっては、コスト縮減を図っており、施設の統廃合等も視野に入れ、効率的な施設整備を行っている
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市長公約である「安全安心な上水道の提供」の実現に効果があった
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	平成27年度の簡易水道統合を控え、更に効率的な施設となるよう、水需要の見極めと管理コストの縮減につながるような施設等の統廃合を進める必要がある
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・老朽施設の整備・改修については、長期的視点に立って計画的に実施する必要がある ・水道ビジョンに基づく平成26年度までの上水道事業への段階的統合を進めるため、資産台帳整備や水源・施設の統廃合などの調整を着実に進める必要がある

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	宮簡水(段)、荘川簡水(六厩)の施設工事が今年度完了予定。また、道路改良に伴う布設替や老朽管の布設替により、安全安心な上水道の提供に取り組んでいる

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進める 奥飛騨温泉郷(中尾)等の施設整備を実施するとともに、老朽管の布設替や老朽化した機械設備を更新する				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・老朽施設の整備・改修については、長期的視点に立って計画的に実施する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21100	簡易水道一般管理事業費	担当課	水道部　上水道課	内線
	番枝				2254

予算			総合計画			
会計	9	簡易水道施設建設事業費	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
款	2	総務費	分野	5	上・下水道
項	1	総務管理費	基本施策	1	安全で安心な水を安定して供給する
目	1	一般管理費	施策	3	経営の安定

根拠計画		高山市水道ビジョン、高山市水道事業整備5か年計画
実施計画事業		水道施設等管理事業、水道施設維持修繕・改修事業
市長公約	6	市民の生活と生命・財産を守ります ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	簡易水道利用者全員	対象者数	15,612　人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・安全で安心な水を安定して供給する		
概要	事業の実施手法(手段)	・簡易水道施設の維持管理、修繕を行う ・取水から配水池までの管理は指定管理者が実施し、配水管以降は市が管理する		

2　事業の推移・結果(Do)

H24の実績	水道料金現年度分収納率　98.9% 指定管理委託料　77,000千円 施設等修繕　93件　26,455千円

	指標名		単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	給水普及率		%	目標値	100	100	100
				実績値	99	99	－
	算出根拠等	現在給水人口/行政区域内人口		達成率(%)	99	99	－
成果指標	給水人口		人	目標値	18,798	18,798	18,798
				実績値	15,863	15,612	－
	算出根拠等	現在給水人口		達成率(%)	84	83	－
成果指標	料金徴収率		%	目標値	100	100	100
				実績値	98.9	98.9	－
	算出根拠等	徴収額/調停額		達成率(%)	99	99	－
活動指標	給水原価		円	目標値	277	277	277
				実績値	240.2	233.3	－
	算出根拠等	給水事業費用/有収水量		達成率(%)	87	84	－
				目標値			
				実績値			－
	算出根拠等			達成率(%)			－
				目標値			
				実績値			－
	算出根拠等			達成率(%)			－

補足事項

平成18年度より取水から配水池までの施設管理を指定管理者制度で実施しており、今年度で8年目となるが、維持管理は順調に推移している。

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出　(千円)　(A)	171,875	149,040	155,412
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	171,875	149,040	155412
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			
	一般財源			
コスト指標	受益者1件当たり(円)　(A／B)	10,835	9,547	9,955
	受益者　給水人口　(B)	15,863	15,612	15,612

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

	評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
①	市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・安全安心な上水道ということについての市民ニーズは高く、安定的に必要性が認められている
			B (1)	ある程度のニーズがある		
			C (0)	ニーズが低い		
②	市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・安全安心な上水道の供給は市の重要な責務である
			B (1)	一部見直しが必要である		
			C (0)	市が実施する必要性が低い		
③	活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進めており、目的とする成果があがっている
			B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
			C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④	執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理者制度を活用し、効率的な施設管理を行っている ・料金収納業務等の外部委託化の可否について検討を行っている
			B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
			C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤	政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・給水原価は全国平均を下回っており、概ね適正と言えるが、更なる効率化を目指す必要がある
			B (1)	ある程度効果があった		
			C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	安全安心な上水道を安定して供給するためには、安定した料金収入の確保が必要であり、料金の収納率向上を図る必要がある 安全安心な上水道供給のため、施設修繕による延命化を図る
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・水道使用者の不公平感を招かないためにも、未納対策は徹底して行う必要がある。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	料金の収納率向上に向け、給水停止を含めた滞納整理の強化を図っている 漏水調査等の実施により、修繕が必要な箇所を把握し、効率的な施設運営につなげる

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・安全安心な上水道の供給のため、施設修繕による延命化を図る ・水道料金の収納率向上により歳入を確保する				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・計画的な施設修繕の実施により、施設の延命化を図る必要がある。 ・水道使用者の不公平感を招かないためにも、未納対策は徹底して行う必要がある。 ・水道ビジョンに基づく平成26年度までの上水道事業への段階的統合を進めるため、資産台帳整備や水源・施設の統廃合などの調整を着実に進める必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	11100 番枝	営業費用(原水浄水費、配水及び給水費、総係費、減価償却費他)	担当課	水道部　上水道課	内線 2254

予算			総合計画			
会計	16	水道事業会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
款	1	水道事業費用	分野	5	上・下水道
項	1	営業費用	基本施策	1	安全で安心な水を安定して供給する
目			施策	3	経営の安定

根拠計画		高山市水道ビジョン、高山市水道事業整備5か年計画
実施計画事業		水道施設等管理事業、水道施設維持修繕・改修事業
市長公約	6	市民の生活と生命・財産を守ります ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上水道利用者全員	対象者数	75,693　人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・安全で安心な水を安定して供給する		
概要	事業の実施手法(手段)	・取水から配水池までの管理は指定管理者が実施し、配水管以降は市が管理する ・予防的な修繕等の実施により、施設の延命化を図り、経費の縮減を目指す		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	水道料金現年度分収納率　99.2% 指定管理委託料　253,000千円 浄水場施設修繕5件13,637千円、給配水管修繕166件23,572千円、ポンプ修繕4件1,174千円

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	水道普及率	%	目標値	100	100	100
			実績値	99	99	－
	算出根拠等：現在給水人口/行政区域内人口		達成率(%)	99	99	－
成果指標	給水人口	人	目標値	77,550	77,550	77,550
			実績値	76,187	75,693	－
	算出根拠等：現在給水人口		達成率(%)	98	98	－
成果指標	料金徴収率	%	目標値	100	100	100
			実績値	99.1	99.2	－
	算出根拠等：徴収額/調停額		達成率(%)	99	99	－
活動指標	給水原価	円	目標値	168	168	168
			実績値	129.0	122.1	－
	算出根拠等：給水事業費用/有収水量		達成率(%)	77	73	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

平成18年より取水から配水地までの施設管理を指定管理者制度で実施しており、今年で8年目となるが、維持管理は順調に推移している。

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	941,264	892,729	927,998
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		941,264	892,729	927,998
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源				
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	12,355	11,794	12,260
	受益者：給水人口	(B)	76,187	75,693	75,693

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・安全安心な上水道ということについての市民ニーズは高く、安定的に必要性が認められている
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・安全安心な上水道の供給は市の重要な責務である
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・指定管理者制度による施設管理は順調に推移しており、高い水準での管理ができている
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・指定管理制度を活用し、効率的な施設管理を行っている ・料金徴収業務等の外部委託化の可否について検討を行っている
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	B	・給水原価は全国平均を下回っており、概ね適正と言えるが、更なる効率化を目指す必要がある
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		
合計		8 ／ 10	→	100点換算	80 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	安全安心な上水道を安定して供給するためには、安定した料金収入の確保が必要であり料金の収納率向上を図る必要がある 安全安心な上水道供給のため、施設修繕による延命化を図る
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・水道使用者の不公平感を招かないためにも、未納対策は徹底して行う必要がある ・料金賦課及び徴収業務の委託化について検討する必要がある

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	料金徴収率向上に向け、給水停止を含めた滞納整理の強化を図っている 漏水調査等の実施により、修繕が必要な箇所を把握し効率的な施設運営につなげる

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・安全安心な上水道の供給のため、施設修繕による延命化を図る ・水道料金の収納率向上により歳入を確保する				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・計画的な施設修繕の実施により、施設の延命化を図る必要がある。 ・水道使用者の不公平感を招かないためにも、未納対策は徹底して行う必要がある。 ・料金賦課及び徴収業務の委託化について検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21100	原水及び浄水設備費	担当課	水道部　上水道課	内線
	番枝				2254

予算			総合計画			
会計	16	水道事業会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
款	1	水道事業費用	分野	5	上・下水道
項	1	建設改良費	基本施策	1	安全で安心な水を安定して供給する
目	1	原水及び浄水設備費	施策	2	給水施設の整備

根拠計画		高山市水道ビジョン、高山市水道事業整備5か年計画
実施計画事業		配水地耐震化整備事業、宮水源紫外線処理施設整備事業
市長公約	6	市民の生活と生命・財産を守ります ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上水道利用者全員	対象者数	75,693　人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・安全で安心な水を安定して供給する		
概要	事業の実施手法(手段)	・原水の取水設備、浄水設備の整備を行う ・配水池、ポンプ場等の耐震化整備を行う ・高度浄水施設整備として、宮水源に紫外線処理施設を整備する		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	上野浄水場PAC注入設備更新　一式 松倉配水地ポンプ制御盤更新　一式 上野浄水場管理棟空調設備改修

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	水道普及率	%	目標値	100	100	100
			実績値	99	99	－
	算出根拠等　現在給水人口/行政区域内人口		達成率(%)	99	99	－
成果指標	給水人口	人	目標値	77,550	77,550	77,550
			実績値	76,187	75,693	－
	算出根拠等　現在給水人口		達成率(%)	98	98	－
成果指標	水道施設耐震化率	%	目標値	100	100	100
			実績値	79	79	－
	算出根拠等		達成率(%)	79	79	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

各種計画に基づいた施設整備を着実に実施している

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)		(A)	30,700	30,896	53,109
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		30,700	30,896	53,109
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源				
コスト指標	受益者1件当たり(円)	(A／B)	403	408	702
	受益者　給水人口	(B)	76,187	75,693	75,693

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・安全安心な上水道ということについての市民ニーズは高く、安定的に必要性が認められている
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・安全安心な上水道の供給は市の重要な責務である
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進めており、目的とする成果があがっている
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・工事にあたっては、コスト縮減を図っており、施設の統廃合等も視野に入れ、効率的な施設整備を行っている
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市長公約である「安全安心な上水道の提供」の実現に効果があった
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	平成27年度の簡易水道統合を控え、更に効率的な施設となるよう、水需要の見極めと管理コストの縮減につながるような施設等の統廃合を進める必要がある
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・企業会計の独立採算制の原則に基づき、長期的視野にたった財政推計、受益と負担のバランス、最小費用で最大効果をもたらす手法の選択などに最大限配慮したうえで、施設の整備・更新を行う必要がある ・外国資本などによる森林売買が社会的問題となっており、水源の安定的利用を妨げられないよう保全に努める必要がある

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	下切導水管耐震化整備、下切加圧ﾎﾟﾝﾌﾟ場・松倉配水機場耐震診断など安全安心な上水道の供給に努める

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進める ・配水地等の耐震化事業を実施するとともに、老朽化した機器等を更新し安全安心な上水道の供給に努める				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・高山市における水源保全地域を定め監視・規制等を行うなど、水源保全のための方策を検討する必要がある。				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21200	配水施設拡張費	担当課	水道部　上水道課	内線
	番枝				2254

予算			総合計画		
会計	16	水道事業会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
款	1	水道事業費用	分野	5	上・下水道
項	1	建設改良費	基本施策	1	安全で安心な水を安定して供給する
目	2	配水施設拡張費	施策	2	給水施設の整備

根拠計画		高山市水道ビジョン、高山市水道事業整備5か年計画
実施計画事業		配水管拡張整備事業、錦山配水区域等再編事業、水道未普及解消事業、上野地区配水施設整備事業、水道統合整備事業
市長公約	6	市民の生活と生命・財産を守ります ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上水道利用者全員	対象者数	75,693　人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・安全で安心な水を安定して供給する		
概要	事業の実施手法(手段)	・配水施設の拡張整備を行う ・錦山配水区域等再編、上野地区配水施設整備等、配水施設の拡張を伴う整備を実施する ・水道未給水地域解消のための助成制度に基づき、配水管整備を実施する		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面

H24の実績	錦山配水区域等再編事業　配水管布設　L=986m、 江名子配水機場築造工事　一式、　江名子配水池築造工事　一式 一般受託工事　L=301m

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	管路整備延長	m	目標値	3,810	960	827
			実績値	5,478	1,287	－
	算出根拠等		達成率(%)	144	134	－
成果指標	給水人口	人	目標値	77,550	77,550	77,550
			実績値	76,187	75,693	－
	算出根拠等　現在給水人口		達成率(%)	98	98	－
成果指標	水道普及率	%	目標値	100	100	100
			実績値	99.8	99.7	－
	算出根拠等　現在給水人口/行政区域内人口		達成率(%)	100	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

各種計画に基づいた施設整備を着実に実施している

コスト面

事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
歳出　(千円)　(A)			369,543	427,771	312,074
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)		369,543	427,771	312074
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源				
コスト指標	受益者1件当たり(円)　(A／B)		4,850	5,651	4,123
	受益者	給水人口　(B)	76,187	75,693	75,693

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・安全安心な上水道ということについての市民ニーズは高く、安定的に必要性が認められている
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・安全安心な上水道の供給は市の重要な責務である
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進めており、目的とする成果があがっている
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・工事にあたっては、コスト縮減を図っており、施設の統廃合等も視野に入れ、効率的な施設整備を行っている
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市長公約である「安全安心な上水道の提供」の実現に効果があった
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	平成27年度の簡易水道統合を控え、更に効率的な施設となるよう、水需要の見極めと管理コストの縮減につながるような施設等の統廃合を進める必要がある
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・企業会計の独立採算性の原則に基づき、長期的視点にたった財政推計、受益と負担のバランス、最小費用で最大効果をもたらす手法の選択などに最大限配慮したうえで、施設の整備・更新を行う必要がある。 ・未給水区域の解消を図っていく必要があるが、助成の条件等を十分検討し、給水後の財政負担のリスク最小化に努める必要がある。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	錦山配水区域等再編事業の推進により安全安心な上水道の供給に努めるとともに、未普及地域を解消するよう要綱の改正に取り組む

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進める 錦山配水区域等再編事業の推進により安全安心な上水道の供給に努めるとともに、未普及解消事業を推進し未普及地域の解消に努める				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	(担当課評価に同じ)				

平成25年度事業評価シート(一般予算)

事業名	21300	施設改良費	担当課	水道部　上水道課	内線
	番枝				2254

予算			総合計画		
会計	16	水道事業会計	政策	3	「すみよさ」のあるまちをめざして
款	1	水道事業費用	分野	5	上・下水道
項	1	建設改良費	基本施策	1	安全で安心な水を安定して供給する
目	3	施設改良費	施策	2	給水施設の整備

根拠計画		高山市水道ビジョン、高山市水道事業整備5か年計画
実施計画事業		配水管布設替事業、送水管布設替事業、老朽管対策整備事業
市長公約	6	市民の生活と生命・財産を守ります ・安全安心な上水道を提供するため、施設の整備を加速するとともに、未給水地域の解消に努めます。

1　事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	上水道利用者全員	対象者数	75,693　人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・安全で安心な水を安定して供給する		
概要	事業の実施手法(手段)	・配水施設の改良整備を行う ・送水管布設替事業(坂口～城山)等、送水管、配水管等の施設改良整備を実施する		

2　事業の推移・結果(Do)

成果面	H24の実績	坂口～城山間基幹管路耐震化整備事業　L=790m、老朽管対策整備事業　L=292m 道路改良に伴う配水管布設替　L=543m、下水関連布設替　L=566m、消火栓新設2基

	指標名	単位	目標・実績	H23	H24	H25
活動指標	管路整備延長	m	目標値	5,300	2,095	2,937
			実績値	4,501	2,191	－
	算出根拠等		達成率(%)	85	105	－
成果指標	給水人口	人	目標値	77,550	77,550	77,550
			実績値	76,187	75,693	－
	算出根拠等　現在給水人口		達成率(%)	98	98	－
成果指標	水道普及率	%	目標値	100	100	100
			実績値	99.8	99.7	－
	算出根拠等　現在給水人口/行政区域内人口		達成率(%)	100	100	－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－
			目標値			
			実績値			－
	算出根拠等		達成率(%)			－

補足事項

各種計画に基づいた施設整備を着実に実施している

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H23 決算額	H24 決算額	H25 予算額
	歳出　(千円)　(A)	268,606	234,355	300,453
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	268,606	134,355	200453
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		100,000	100,000
	一般財源			
コスト指標	受益者1件当たり(円)　(A／B)	3,526	3,096	3,969
	受益者　給水人口　(B)	76,187	75,693	75,693

3　分析・評価(Check)　※平成24年度の実績を評価

評価項目	評価観点	評価基準		評価	評価内容の説明(評価の理由等)
① 市民ニーズの確認	・事業実施に対する市民ニーズの傾向はどうか ・社会情勢の変化など時の経過に伴いニーズは減少していないか	A (2)	ニーズが高い	A	・安全安心な上水道ということについての市民ニーズは高く、安定的に必要性が認められている
		B (1)	ある程度のニーズがある		
		C (0)	ニーズが低い		
② 市が実施する必要性	・市が事業主体であることは妥当か ・国・県・民間の活動と競合していないか	A (2)	事業主体を見直す余地はない	A	・安全安心な上水道の供給は市の重要な責務である
		B (1)	一部見直しが必要である		
		C (0)	市が実施する必要性が低い		
③ 活動内容の有効性	・目的とする成果があがっているか ・成果指標などの目標値の達成状況はどうか	A (2)	目的とする成果が十分にあがっている	A	・総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進めており、目的とする成果があがっている
		B (1)	目的とする成果がある程度あがっている		
		C (0)	目的とする成果があがってないため大幅な見直しが必要である		
④ 執行方法の効率性	・最小限のコストで事業を実施できているか ・委託化など事業の効率化・省力化に向け実施手法に改善の余地はないか ・国等の補助金の活用など市の財政負担を軽減する余地はないか ・受益者負担は適正か	A (2)	事業効率化・コスト縮減等の改善の余地はない	B	・工事にあたっては、コスト縮減を図っており、施設の統廃合等も視野に入れ、効率的な施設整備を行っている
		B (1)	事業効率化・コスト縮減等がある程度図られている		
		C (0)	効率化が図られていないため大幅な見直しが必要である		
⑤ 政策面における効果	・事業の実施が市の政策、施策の推進に効果があったか ・総合計画及び主要計画等の目標達成を図る上で有効に機能したか ・市長公約の実現を図る上で有効に機能したか	A (2)	効果があった	A	・市長公約である「安全安心な上水道の提供」の実現に効果があった
		B (1)	ある程度効果があった		
		C (0)	あまり効果が見られなかった		

合計	9 ／ 10	→	100点換算	90 点

分析・評価で明らかになった課題(「A」評価にするために何が必要なのかを記入)	平成27年度の簡易水道統合を控え、更に効率的な施設となるよう、水需要の見極めと管理コストの縮減につながるような施設等の統廃合を進める必要がある
(参考)H24事業評価結果(二次評価)	・企業会計の独立採算性の原則に基づき、長期的視点にたった財政推計、受益と負担のバランス、最小費用で最大効果をもたらす手法の選択などに最大限配慮したうえで、施設の整備・更新を行う必要がある。

4　今後の方向性(Action)

課題等に対する今年度の対応状況	坂口～城山間基幹管路耐震化整備事業をはじめ、老朽管対策事業や道路改良に伴う布設替等の実施により安全安心な上水道の供給に努める

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	総合計画をはじめとする各種計画に基づき、施設整備・改良を進める 坂口～城山間基幹管路耐震化整備事業や老朽管対策事業の推進により安全安心な上水道の供給に努める				

二次評価(企画課・総務課・財政課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	H25完了予定
	・耐震化に関する計画策定の検討など、計画的な耐震化に向け取り組む必要がある。				